

平成26年5月28日(水)

第449回 史跡めぐり

## バラの花さく旧古河庭園と記念館めぐり

洋風庭園に咲くバラを観賞、作詞家・作曲家・  
小説家の記念館を訪ねます。

北区 旧古河庭園

千代田区 明治大学「阿久悠記念館・大学博物館、(昼食・師  
弟食堂)、

渋谷区 古賀政男音楽博物館

新宿区 林芙美子記念館

旧古河庭園



明治大学と阿久悠



## 第449回 史跡めぐり

洋風庭園に咲くバラ・回遊式日本庭園を親賞。作詞家(阿久悠)・作曲家(古賀政男)・小説家(林芙美子)の記念館を訪ね、知識を広め、楽しみましょう。

**実施日** 平成26年5月28日(水)

**集合** 南越谷駅東口 りそな銀行前 午前8時

**参加費** 6500円 (バス代、昼食、見学料、保険料など)

### コース

南越谷駅前 8:00 出発 → (外環道・首都高) →  
(旧古河庭園) → (明治大学・昼食・阿久悠記念館・大学博物館) →  
(古賀政男音楽博物館) → (林芙美子記念館) → 「越谷」

**帰路 解散場所** 南越谷駅 東口りそな銀行前

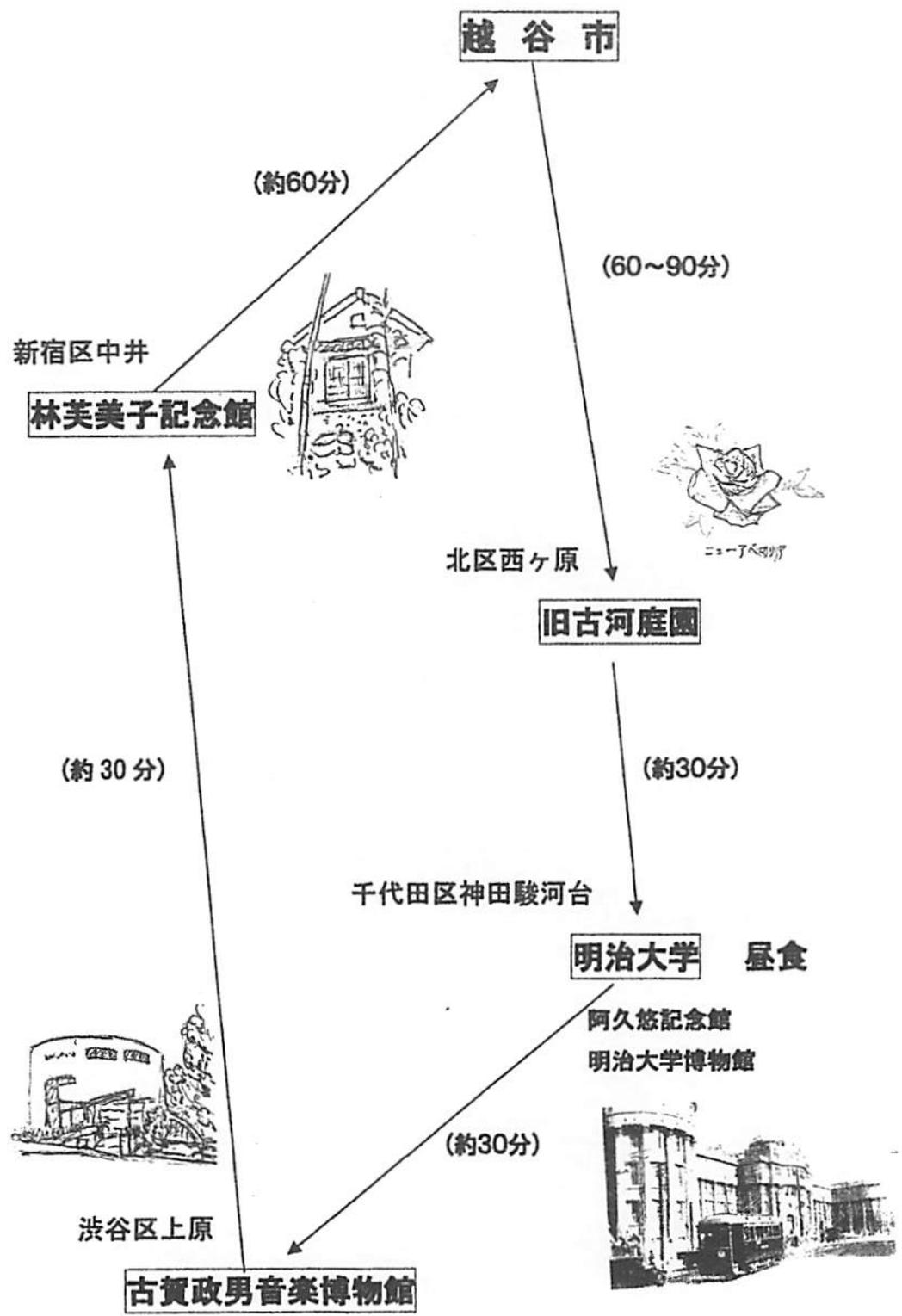
解散時間は 6時30分ごろ

**案内者 常任理事** 田端功政、田端グループ(実行委員・川端孝夫、  
豊田益子、森田伝一)

NPO 法人越谷市郷土研究会

# バスのコース

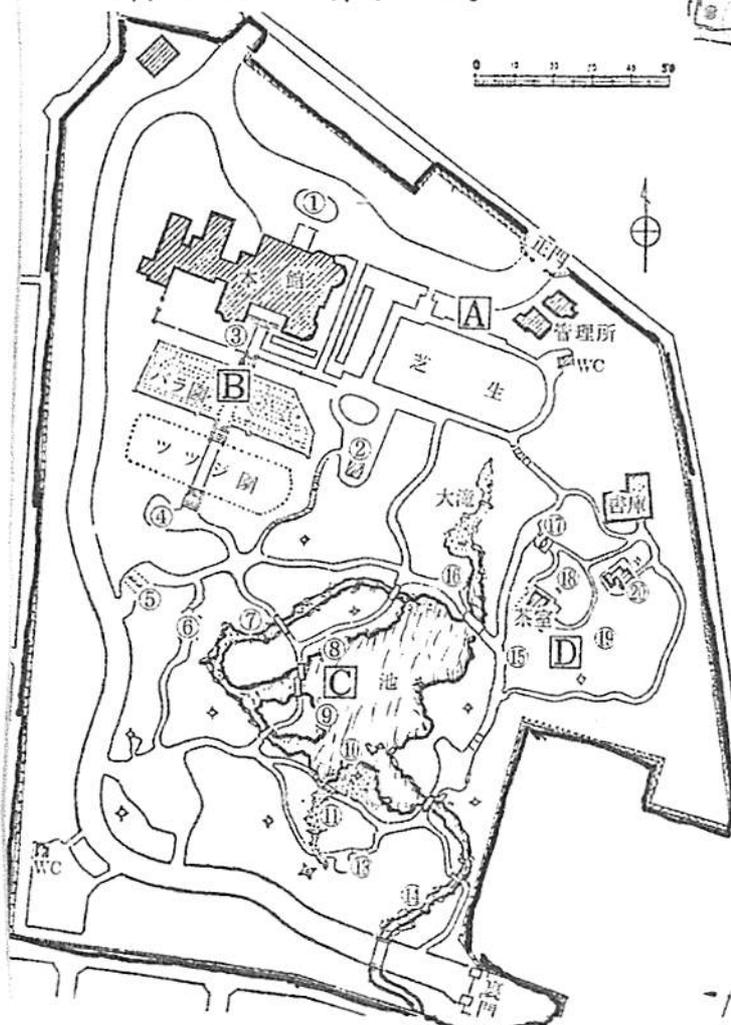
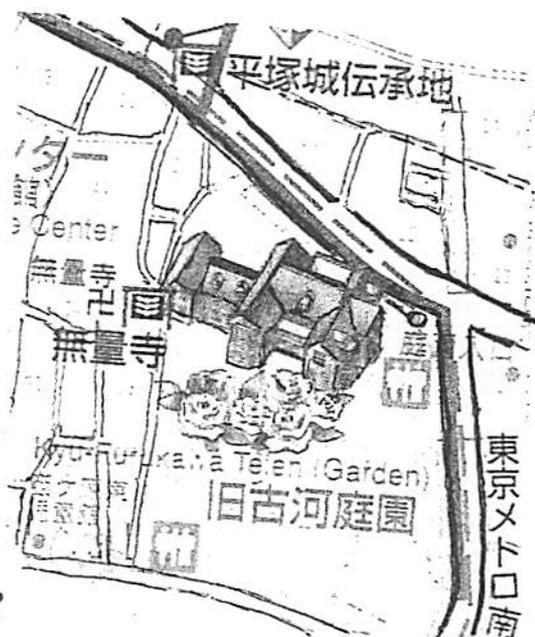
今日の訪ねる所



## 旧古河庭園・国指定名勝

東京都北区西原1-27-39  
 「豪壮でおしゃれな館物、和洋の庭、  
 大正の息吹きに触れる心地よい空間」  
 武蔵野台地の斜面と低地の地形をい  
 かし、北側の高台に洋館斜面に洋風  
 庭園、低地には日本庭園を配する。  
 洋館、洋風庭園の設計者はコンドル  
 (英国人)。

日本庭園は小川治兵衛(京都の庭  
 師)によって作られた。



### 洋風庭園

テラス式の庭園に植え  
 られたバラは、春と秋に見  
 事な大輪の花を咲かせる。

### 日本庭園

中心に心字池、淵の曲線が  
 心を癒します。大滝、枯滝、  
 大きな雪見灯笼が周囲の緑  
 に映えて、風情の深いもの  
 にしている。

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| ①車寄せ     | ⑧船つき石 | ⑮崩石組  |
| ②展望台     | ⑨中島   | ⑯滝見台  |
| ③テラス     | ⑩磯    | ⑰庭門2  |
| ④たまり場    | ⑪枯滝   | ⑱露路   |
| ⑤庭門1(兜門) | ⑫広場   | ⑲もみじ台 |
| ⑥やすみ所    | ⑬見晴台  | ⑳上の茶屋 |
| ⑦深山溪谷    | ⑭沢ながれ |       |

「光に浮かぶバラの庭園」(朝日新聞夕刊・平成26年5月10日)

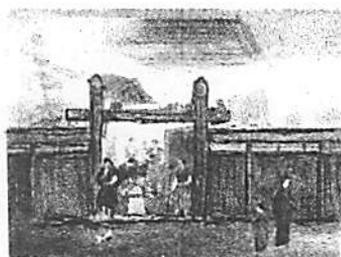
5月10日～6月8日「春のバラフェスティバル」が開かれる。約90  
 種180株のバラが咲く。

## 古河市兵衛と盟友(渋沢栄一、陸奥宗光)

古河財閥の礎を築いた古河市兵衛は、京都の豪商・小野組で生糸の買い付けをしていた古河太郎左衛門の養子となり、商才を発揮して小野組東京店の番頭となる。この頃より、鉾山経営を通して、渋沢栄一との関係を深めた。渋沢と明治政府の元勳であった陸奥宗光とは盟友であり、陸奥宗光の二男が古河市兵衛の養子になり、この地(陸奥宗光の邸)が古河家の住む所となった。

## 明治大学

明治大学は、1880(明治13年)麹町区有楽町に設立された明治法律学校が前身であり、駿河台には1886年に移転してきた。



## 阿久悠記念館

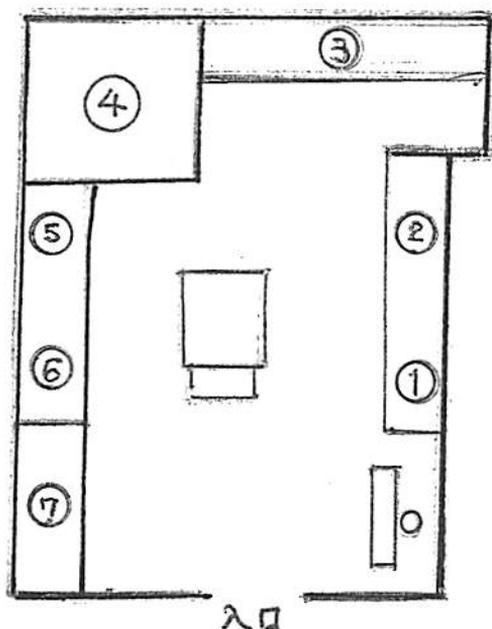


日本を代表する作詞家、阿久悠は、5000曲以上におよび。都はるみ「北の宿」、ピンク・レディーの「UHO」をはじめ、ヒット曲を送りだし、日本レコード大賞5回、小説「瀬戸内少年野球団」など 作詞家、作家として、多大な業績をのこしました。

2010年、ご遺族から、自筆原稿をはじめとする阿久悠関係資料およそ1万点が寄贈されたことを受け、阿久悠氏の業績をたたえるため、記念館を創りました。

夢は碎けて夢と知り  
愛は破れて愛と知り  
時は流れて時と知り  
友は別れて友と知り

## 阿久悠記念館の配置



- ① 阿久悠と明治大学  
明治大学在中のレポートなど
- ② 生きつばなしの記  
淡路島で生まれそだち、州本  
高校から明大へ
- ③ 歌もよう・人もよう  
作詞・作家活動時代
- ④ 阿久悠の書齋  
伊豆宇佐美の自宅書齋
- ⑤ 特別展示。
- ⑥ 明大歌謡史の系譜。
- ⑦ 阿久悠の歌

### 「津軽海峡・冬景色」

上野発の夜行列車 おりた時から  
青森駅は雪の中  
北へ帰る人の群れは 誰も無口で  
海鳴りだけを きいている  
私もひとり 連絡船に乗り  
こごえそうな鷗見つめて 泣いていました  
ああ 津軽海峡・冬景色



### 明治大学史展示室

創立者ゆかりの資料、旧記念館のジオラマ模型をなど、明治大学の歴史を紹介しています。

## I 考古部門展示室

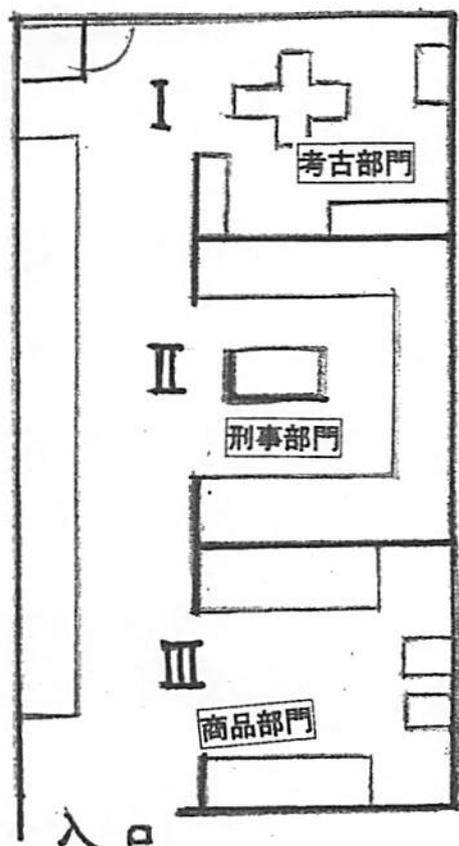
考古学は人類の過去を探り、その時の生活や文化を再構成する学問です。そのため考古学は遺跡を発掘し、過去を復元する証拠を探す。明治大学考古学では、旧石器時代から古墳時代にいたる遺跡を調査してきました。群馬県岩宿遺跡の発掘は有名です。

## II 刑事部門展示室

建学の理念「権利自由」にもとずき、刑事関係を展示しています。「日本の罪と罰」では時間の流れに沿って展示しています。「江戸の捕者」、「牢問と裁き」、「さまざまな刑事博物」では、捕者具、日本や外国の拷問・処刑具の展示、とくにギロチンはここだけです。

## III 商品部門展示室

手工芸的製品の衰退を考慮し、伝統的手工業製品(漆器、染織品、陶磁器)などの製品展示。



### 山の上ホテル「千代田区駿河台にあるホテル」

昭和11年に建物はでき、ホテルは昭和29年の開業。出版の多い神田に近い所から、作家の滞在に利用された。「文人の宿」として、川端康成、三島由紀夫、池波正太郎等が利用した。

### 「お茶の水」

江戸時代初期、神田山の縁にあった高林寺の庭より良い水が湧き出るので、二代将軍「秀忠公」に、お茶に用いて差し上げ、大変喜ばれた。この辺りを「お茶の水」と言うようになった。



## 古賀政男音楽博物館

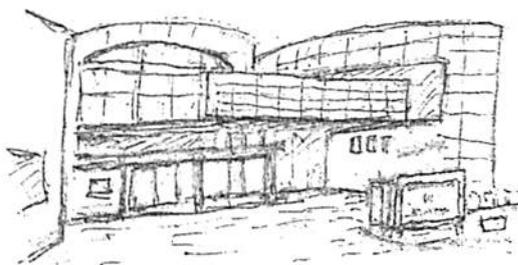
東京都渋谷区上原 3-6-12

ここは古賀政男が明治大学卒業後に昭和13年に移り住んだところです。

音楽創造に邁進する同士をあつめて音楽村を創ろうとしたところです。古賀政男音楽博物館は古賀政男の遺志を引き継いで誕生した大衆音楽の博物館です。日本の歌謡史についても展示しています。



### 記念館の入口



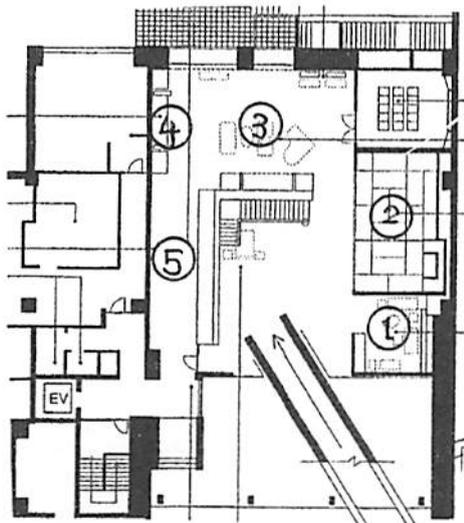
### 館内の案内

地下1階・音楽情報室とカラオケスタジオ

1階・エントランス・けやきホール

2階・大衆音楽の殿堂

閉館を機に、大衆音楽の歴史をふり返り、その発展に貢献された方々の功績を顕彰し、さらに新たな才能の輩出を期待し設けた。



3階・常設展示室「古賀政男を偲ぶ」

① 作曲活動の場。

古賀邸2階の書斎を移設したものです。

② くつろぎの場。

古賀邸の十畳間と六畳の和室そのまま移設したものです

③ レッソンの場。

古賀邸のレッスンの一部を移設したものです。

④ コレクション。

古賀邸の客間を移設したものです。古賀氏の趣味、嗜好を語る品々を展示

⑤ 生涯の歩み。音楽家、古賀政男 73 年の生涯の年表、写真、資料により紹介しています。

古賀政男の作曲の場



古賀政男



明治 37 年(1904)~昭和 53 年(1978) 74 才  
福岡県三潴(みずま)郡田口村「現:大川市」生まれ。明治大学では、マンドリン倶楽部の創設に参加。在学中に作曲家を志し、「影を慕いて」を発表。卒業後はレコード会社専属作曲家として迎えられ、名曲を残した。

主な作品

影を慕いて 湯の町エレジー 人生の並木路  
柔 人生劇場 誰か故郷を想わざる

処女作「影を慕いて」誕生 昭和3年(1928) 24 才

まぼろしの影を慕いて  
雨に日に 月にやるせぬ我が想い  
つつめば燃ゆる 胸の火に  
身は焦(こが)れつつ しのび泣く  
まぼろしの影を慕えば  
灯火の 光にきゆる悲しさに  
熱き泪は 枯れ果てて  
いく夜寝覚めの 夢寂し  
わびしさよ . . .  
君故に 永き人世を霜枯れて



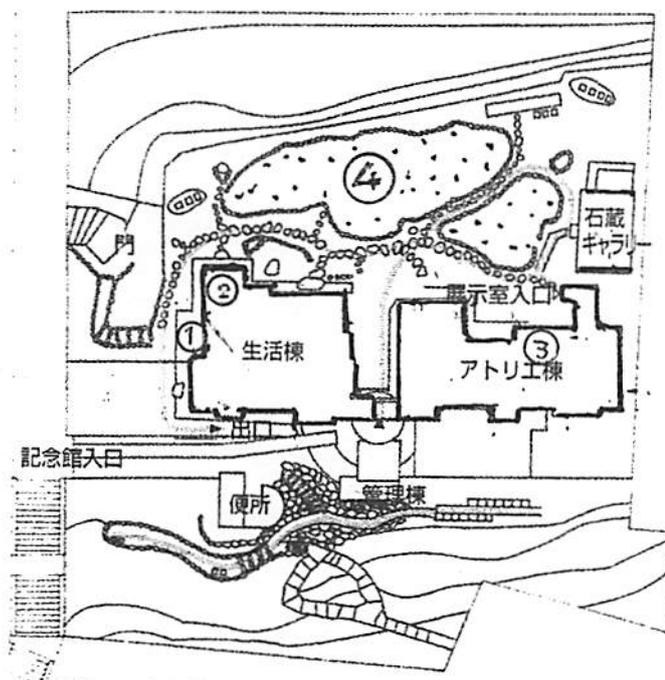
愛の破局、生活苦、未来への絶望、当時の私の心象をすべて織り込み、謳(うた)い上げたものだ。

## 林芙美子記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)

新宿区中井2-  
20-1



### 芙美子が愛した家と庭



この建物は「放浪記」・「浮雲」(花ののちは みじかくて 苦しきことのみ 多かりし)などの代表作のある、林芙美子が昭和16年(1941)から昭和26年(1951)亡くなるまで住んでいた家です。

林芙美子は大正11年(1922)に上京して以来、多くの苦勞を乗り越え、昭和5年(1930)に落合の地に移り住み、昭和14年(1939)この土地を購入し、家を建設しました。数寄屋造りのこまやかさ、民家風のおおらかさを併せ持ち、落ち着いたある住まいです。

- ① 玄関 原稿の受け取り、執筆依頼の客が何人も訪れた。
- ② 茶の間 暮らし易さを考えた一家団樂の場
- ③ 書齋 納戸として作られた部屋、しばらくして、書齋になる。
- ④ 庭 芙美子が愛した木々が植えられた。(カクリ、サランなど)

## 「放浪記」の誕生

1929(昭和4年)芙美子は第一詩集「蒼馬(あおうま)を見たり」を刊行する。十月雑誌「改造」に「九州炭鉱街放浪記」を發表。これが「改造」編集者の水島治男の目にとまり、翌年「放浪記」が世にでる。荒削りで、「生」な息吹きが刻まれ、芙美子独自の文体の特徴が顕著である。

「放浪記」・・・朝、青梅街道の入口の飯場へ行った。熱いお茶を飲んでいるとドロドロに汚れた労働者が駆け込むように入らって来て「姉さん、十銭で何か食わしてくれないかな、十銭玉一つきりしかないんだ。」

## 林芙美子 年譜「0才～19才」

1903(明治36年) 0才

12月31日(戸籍上)福岡県門司市大字小森江で、林キクの婚外子として生まれる。

実父「宮田麻太郎」は愛媛県出身の行商人。桜島の古里温泉に滞在中、林久吉の営む温泉宿を手伝っていたキクと結ばれた。ともに行商をしながら転々とし、芙美子出生の頃には門司にいた。

1904(明治37年) 1才

宮田は商才にたけ、門司から下関に転居「軍人屋」という質物を扱う店を構えた。商売は繁盛した。若松、長崎、熊本などに支店を出すほどになる。

1907(明治40年) 4才

宮田は本店を下関から石炭景気で賑わう、若松に移す。

1910(明治44年) 7才

宮田が芸者を家に入れたため、キクは芙美子を連れ店員の「沢井」と家をでた。長崎へ移った。「沢井」は岡山県小島郡の出身でキクより20才年下である。4月長崎市勝山尋常小学校入学。後 佐世保市八幡女児山尋常小学に転校。

1914(大正3年) 11才

「沢井」の店が倒産。両親が行商に出うため鹿児島島の叔母、祖母に預けられる。鹿児島市山下小学校に編入したり、養父と母の行商に付いて、九州各地を転々とした。

1916(大正5年) 13才

5月、一家は広島県尾道市に転居。6月第二尾道尋常小学5年に編入。小林正雄教師が芙美子の文学や絵の才能を見出し、女学校進学を進める。

1917(大正6年) 14才

4月、広島県尾道市立高等女学校に入学。学費のため 夜は帆布工場で働く。読書に熱中。国語教師は芙美子の文才を育む。校友会誌に作文が載る。

1922(大正11年) 19才 女学校を卒業。

上京し、東京で職を転々とする。

## 古賀政男音楽博物館



## 林芙美子記念館



### <次の資料から引用しました>

- 1 東京都の歴史散歩（上）山川出版社
- 2 星をつくった男 講談社文庫 重松清著
- 3 古賀政男（歌はわが友わが心）人間の記録  
日本図書センター
- 4 生誕110年林芙美子展 新宿未来創造財団
- 6 旧古河庭園 北村信正著 東京都公園協会
- 7 記念館発行パンフレット